

平成19年度 たっち 事業報告書要約

平成19年度の概況

- 「ひろば」の来館利用者数は11万人弱、オープンから3年を経過し延べでは39万人となった。府中市外からの利用も少なくなく、多摩地域を中心に広範囲に認知されている。リフレッシュ保育は年間1,580名の利用(97%が市内利用)、ファミリーサポート事業は年間の活動件数が6,000件を超えた。相談事業は府中市との連携を強める中、職員体制を拡充し、法人の持つ専門性を発揮した。
- 1 ひろばで利用は一日平均145組305名の利用があり、利用者の求めるタイミングを意識し、声かけするよう努めた。安全確保のため、入館制限を実施したが、スタッフの工夫等により、回数は減っている。
- 2 総合相談受付や情報コーナーおよびひろば等で、地域の子育て情報を幅広く提供した。
- 3 毎月の防災訓練をはじめ、不審者対応の訓練も実施した。また、掃除の徹底や観葉植物等を設置するなど、館内の美化にも努めた。
- 4 法人主催の研修をはじめ、市を通した児童相談所等への体験研修や各種専門的研修を実施し、職員個々のスキルアップを図った。
- 5 市およびたっち・しらとりの連携については、連絡会等での情報共有は図れたが、事業運営については課題も多くあり、更なる協議が必要。
- 6 専門相談員を配置し、市職員との連携は密になった。
- 7 サービス自主評価(1月実施)
“防災・事故防止”については、担当の取り組みもあり、評価は上がったが、引き続き努力が必要。苦情解決に関して、たっち内に法人としての苦情解決担当者を置いていないことや、意見箱の設置がないことで、全体と比較して低い評価になっている。

平成19年度の課題

- 1 利用者が気軽に利用できる施設づくりを目指す
利用者が安心して利用できる施設を心がける。
- 2 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る
利用者自身が地域の中で、周りの人や社会資源とつながりが持てるよう支援する。
- 3 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る
安全点検を実施し、防災・防犯等日常管理を徹底し美化を心がける。
- 4 職員の資質・専門性の向上を図る
利用者に信頼される職員を目指して、マナー研修を実施する。
- 5 「しらとり」との協働を心がけ、効率化を図る
しらとりとの役割分担を明確にする
- 6 相談事業の市職員との協働を図る
- 7 職員が心身とも健全に勤務できる環境整備
・「加湿」「換気」「空調」対応を府中市に常に働きかける
・ファミリーサポート事業の事務所スペースの確保

	サービス利用・提供状況	平成19年度事業計画の執行評価
運営・管理	① 平成17年3月のオープン以来、府中市の子育て支援の中核施設として認知度も高まった。 ② くるる館内の合同防災訓練をはじめ、ひろば・リフレッシュ保育を軸とした防災訓練を毎月実施した。 ③ 不審者対策として、「さすまた」を用いた防犯訓練を実施する等防犯意識を高めた。 ④ よりよい施設づくりに向け、利用者アンケートを実施した(10月:FSC 1月:ひろば・リフレッシュ保育)。 ⑥ 個人情報対策は、入職時研修に位置づけ徹底を図った。 ⑦ 限られた人員体制の中、職員一体で業務を推進し、年間168名のボランティアを受け入れた。	① 職員が心身とも健全に業務に従事できるようマネジメントした。 ② それぞれがスキルアップできる研修プログラムを構築実施した。 ・新入職員は、たっち・しらとり連動で、事業・サービス内容を学んだ。 ・専門職員はそれぞれのスキルに対応しより専門性を高めた。 ③ 過去のデータに基づき、人員配置を検証した。
総合相談	①常勤職員3名(育休1名)、契約職員1名、非常勤職員2名(産休1名)と市相談員5名とで随時協議を重ね対応した。 ②新規相談件数764件で、内容は育児不安やストレス、健康・心身の病気、児の不登校や発達、家族内の暴力の相談が多い。 ③虐待の相談は全体の約3割で、家族からの相談・関係機関からの通報に加え、児からの相談も増加した。 ④ひろば登録受付や身体測定などで、気軽に相談してもらうことで予防的関わりが出来た。 ⑤子育て交流会「すやすや・ころりんクラブ」を年3回開催し、落選した方には「ミニすやころ」交流会を開催した。他にも「1歳児のはいぼ」を年2回開催した。 ⑥子育て講座「カンガルータイム(妊婦世帯向け2回、2歳児母親向け、0歳児触れ合い遊び)」を4回開催した。	① 利用者支援に必要な知識や技術、常に最新な情報を収集し対応できるよう心掛けた。 ② 利用者やその家族の生活全般を総合的に支援した。 ③ 府中市相談員と協働し、協議を密にして役割分担を行った。
ひろば	①登録総数は28,367名(市内13,065名 市外15,302名)と市外が市内を上回っている。 ②平成19年度単年では、市内38% 市外62%と市外が増加傾向 前年度以上に広域からの利用者が増えている。 ③母子を中心とした親子交流はもちろん、土日には父子や祖父母と孫の利用も目立つ。 ④利用者の多い日には小学生の入館(登録児のきょうだい)を制限するなどし、安全確保に努めた。 ⑤11時・14時にスポットタイムと名づけた日替わりでのプログラム活動を実施し、好評を得た。 ⑥こどもの日やクリスマス等季節感を出した内容の「スポットタイム」と、季節ごとのスタッフによる手作りの装飾が、好評を得ている。	① 職員間のコミュニケーションを密にし、情報共有を円滑に行った。 ② 他部署への情報発信、情報共有を密に行い、部署間の連携が円滑に進むようにした。 ③ 利用者支援を向上させるためのスキルアップを図った。
家族支援	リフレッシュ保育 ①常勤職員2名と非常勤職員3～5名で1日3名の体制で業務にあたった。 ②リフレッシュ保育新規登録者数は375名、延べ登録者数 1,492名(1日:4時間以内の保育)であった。 ③リフレッシュ保育利用者数は延べ1,580名で、1日あたりの利用者数も20%増加している。 ④利用理由は約半数が「リフレッシュ」で、次いで「通院・検診」「園・学校行事」となっている。更に「趣味・講座への参加」による利用も増加している。 ⑤毎月の防災訓練を様々な場面設定を想定し実施した。 ⑥「リフレッシュ保育」の他、相談員と連携し相談時の乳幼児保育も行った。 ⑦保育登録更新手続きに関して、次年度に向けて書類の見直し、検討を行った。	① 「ほうれんそう」を徹底し、職員間の意志疎通をはかり、利用者への丁寧な対応、保育を行った。 ② 部署内における事例共有会をとおして、職員のスキルアップを目指した。 ③ 多様な利用者への支援に必要な情報共有の場を定期的に設けた。
	ファミリーサポート ①19年度の新規登録者は255名で会員数合計1,194名(依頼892名提供233名両方69名)となった。 ②年間活動件数は6,387件で18年度より1,354件増加した。 ③一番多い活動は学校への送り、小学校から学童、通級への送り(障害児など)で1,312件、次いで保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預りが、1,222件あった。 ④事故予防や安全なサポートの質を高めるため、提供会員登録講習会を3日間から4日間に増やして、内容を強化した。 ⑤提供会員のスキルアップ企画としてグループ討議・障害児へのサポート・幼児安全法について講座を開催した。 ⑥年2回の交流会は、器楽演奏・座談会を実施、親子で楽しんだ。 ⑦サブリーダーの活動として、年11回の定例会で活動状況や行事の企画について話し合い、市民の声を事業に活かした。 ⑧法人ホームページで依頼会員登録説明会等の日程を公開したり、ポスター掲示を増やすなど、広報活動に力を注いだ。	① 援助活動の質の向上のため、講習会を充実させ、予防に力を入れたことにより、1年間無事故で終えることができた。 ② 変則勤務が多い中、職員間のコミュニケーションを的確に行った。 ③ 都内他拠点ファミサポの状況を把握し、今後の運営の参考にした。 ④ 事務業務の省力化を検討し、取り組んだ。